

学校名	新座市立第二中学校
実施日	令和5年1月19日

<記入の仕方>

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、「個に応じた学力の向上」をめざし、主体的に学習に取り組む生徒を育成するため、ICT機器を積極的に活用し、授業改善に取り組んでいる。	A	今年度は新座市教委研究委員の2年目である。研究主題「主体的に学習に取り組む生徒の育成」の実現にあたってICT機器の積極的な活用を通じた授業改善を目指している。年度当初に研修主任を中心として積極的に研修を行った結果が、各授業での積極的なICT活用に繋がっている。今年度よりICTに精通している教員を校内マイスターとし、その教員もICT機器の使い方について聞きやすい環境作りを行った。その結果、多くの教員がデジタル教材、Google Meet、ロイノート、キュビナ等、それぞれの良さをその都度使い分け、生徒にとって理解しやすい方法で授業が出来るようになった。今後も教科間で連携を増やし、教科の特性に応じた学習方法を検討し、さらに学びが深まるよう研究を進めていく。ICT活用・推進の結果、「埼玉教育」に本校の実践の紹介が掲載されたり、南部学力向上発表会において本校の実践の発表を行った。また、各地からは本校の実践等の視察に来ていた。	A	・学校力を高めていることを評価する。 ・公立に関わらず、先進的な取組をしている。 ・公立でありながら時代に沿ったICT機器を活用した授業改善はすばらしい。モデル校として努力が見られる。校内研修も充実している。今後も継続を期待する。 ・ICT機器の活用を目指し、教員研修を実施し、教員を校内マイスターを設置する等、工夫を凝らして実践し、大きな成果をあげている。組織的に研修を行っている。 ・生徒用アンケート「授業について」での評価が全体的に上がっている。また、校外からも評価されている。素晴らしいと思う。 ・先生方の取組の結果で先生が自信をもってくださると生徒も安心です。
2	学校は、「豊かな心と健やかな体の育成」をめざし、教育相談、道徳教育、体力課題の解決、健康教育等の推進に取り組んでいる。	A	毎週、教育相談・生徒指導部会を行い、情報の共有化を図り、組織的な対応をしている。一人一人に応じた支援の仕方や課題解決に向けた取り組みを行うことで、生徒に寄り添った指導を実施できている。相談室登校の生徒への対応として、教師の空き時間を利用して授業を実施することで、登校意欲を高めている。SC・SSWとの連携が、支援が必要な生徒の安心した学校生活に繋がっている。道徳教育は、学年内で道徳授業を割り振って担当するなど工夫をしている。教材研究されたものを学校全体で共有していけるよう、道徳主任を中心に働きかけていく。体力の課題解決については体育科が中心となり、新体力テストを分析し、バランスのよい体力向上を目指した授業を実践している。	A	・バランスのとれた教育活動、一人一人に対応した指導のあり方の取組等評価したい。 ・オンライン授業を行うことにより、登校できるようになる環境を整えていることを評価する。 ・個々の課題の把握を組織に行い、個に応じた取組が実施されている。 ・コロナの影響もあり、不登校の生徒が全国で激増しているとのニュースがありました。その中で二中の対応は本当にすごいと思います。 ・成績だけでなく部分への細部までの配慮を感じます。
3	学校は、「保護者・地域との連携」をめざし、コミュニティスクールを充実させ、地域・家庭(PTA)・学校が一体となった教育の推進に取り組んでいる。	A	今年度も昨年度同様、コロナ禍のため思うようなPTA活動・学校応援団・ふれあい地域連絡協議会の活動は難しい状況であった。しかし、その中でもあつても読み聞かせ・PTAの方によるあいさつ運動、植栽・除草作業、体育祭・合唱祭の手伝い等、昨年まで縮小または行えなかったものが徐々に再開された。多忙な中にも関わらず、子どもたちの為に取り組んでくださる様子から多くの面々で、保護者や地域に支えられながら生徒が育てられているのだと全教職員が実感している。	A	・教職員が、保護者・地域と共に教育活動を進め、生徒を育てるという意識がでていることはすばらしい。 ・読み聞かせ再開は評価したい。変わらぬ真剣に聞く生徒の姿が見られた。メリハリのある生徒と感じた。 ・学校・保護者・地域連携のもとコミュニティスクールの充実に向けて、今できることから取り組んでいる。 ・私たち自身も、子供たちの笑顔に支えられて活動ができていく。教職員からの笑顔の声かけもうれしい。

評価項目「**組織運営**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	A	教育課程検討委員会及び企画委員会で学校行事の精選・スリム化を実現することで、機能的な組織へと改善することができた。しかし、学校行事における役割分担への偏りへの改善及び適切に情報伝達共有化できるよう、管理職としても適宜助言・指導を行っている。	A	・具体的な改善が進められていることがわかる。 ・問題に気づき、素早く改善する姿勢を評価する。 ・学校行事の見直しで組織改善がなされたが、役割分担の平坦化等、さらなる円滑な運営ができるように努力された。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通して、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	校長が掲げる「目指す学校像」具現化に向けて、全教職員が共通理解のもと教育活動が展開している。さらに学校評価の結果については、教職員と共有し組織的な学校経営の改善に役立てている。学校行事については、コロナ禍に応じた活動の工夫を行った。今年度行ったことの振り返りを行い、来年度につなげている。	A	・PDCAサイクルに沿って、全教職員が共通理解のもと適切に運営されている。 ・「安全で清掃が行き届いた学校」である。また、校舎の修繕があると聞いている。 ・校長の強いリーダーシップが発揮された学校経営が行われている。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	避難訓練時に教頭からの講話・防災シミュレーション等を行ったが、コロナ禍ということもあり、集団的な行動が制約され、また計画していた日が雨天だったこともあり、十分な避難訓練はまだ実施できていない。しかし、様々な場面での指導や避難訓練時のアンケートや感想記入等を通して、生徒への災害に対する意識を高めている。次年度は、計画的に実施できるようなう進めていく。また、台風等の緊急的な災害についても、スクールメール等も活用し、全教職員で組織的に対応できた。危機管理マニュアルについては、年度末に見直しを実施している。	A	・校内に生活道路がある環境であり、不審者の侵入に対してもマニュアルが共通理解されているのか、災害はいつ起きるかわからないため、さらなる充実をしいていきたい。 ・コロナ禍で避難訓練で生徒の防災意識が高められた。さらに想定外の事態(爆破予告等)についても備えられた。 ・生徒への働きかけを評価する。大事なことだと思う。

評価項目「**学力向上**」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	研究テーマ「主体的に取り組む生徒の育成～ICT機器の活用を通して～」の実現に向け、ICTを積極的に活用した授業展開が行えている。生徒が落ち着いた学習できる環境を整えるため、教員も含めチャイム数分前には着席・準備でき、時間どりの授業開始が定着している。生徒アンケートでも「授業の決まりを守っていますか」では97.0%が肯定的な回答をしている。	A	・ICTを積極的に活用して、生徒が学習内容の理解を深められるような授業展開ができている。 ・アンケートも非常に高い評価である。教員の指導が徹底している。 ・学習姿勢が徹底していることを評価する。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	A	学力向上プラン及び年間指導計画に言語活動の充実を明記し、計画的に指導している。学習支援ソフトの「ロイノート」を積極的に活用することで、パソコン上で自ら思考し、生徒同士で意見の交流を図り、課題を解決していく授業スタイルが確立しつつある。その結果、生徒アンケートにおいても、「先生は授業中に説明するだけでなく、自分で考えさせたり、活動させたりしている」の項目で97.9%と成果にも表れている。「先生は、わかりやすい教材などを使って説明してくれるので、授業がわかりやすいですか」の項目も肯定的評価が94.7%である。	A	・新たな授業スタイルも確立され、学力も定着している。生徒からの評価も高い評価で実施されている。 ・キュビナの積極的な活用がよい。キュビナは正解率がするので、理解度がわかりやすい。 ・言語活動の充実を目指して、計画的に指導されている。また、学習支援ソフトを活用し、思考力・表現力等の育成に努め、わかりやすい授業が展開されている。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	全授業で本時のねらいを明示し、授業の見通しをもたせて展開している。今年度の全国、県学力・学習状況調査結果においても、ほとんどの項目が平均以上であり、各学年の伸び率も良好であった。A型教材「キュビナ」を授業だけでなく、各学年朝読書及び週1回のジャンプアップタイムで活用することで、個別最適化学習を展開できている。	A	・昨年度の取組を継続していることと評価している。キュビナについて改善をソフト会社と行っているのも評価できる。 ・全授業でねらいを明示し、見通しを持たせて授業展開することにより、効果的な学習指導ができている。 ・個別最適化学習が展開されていることこそ評価したい。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	英語の授業では英語指導講師・助手や英語科教員との役割を分担し、授業を充実させている。英語で授業を進める中でも生徒は対応できている。昨年度までは、コロナ禍により、対話を活かした活動が制約されていたが、今年度は感染防止対策を講じながら、英語指導講師・助手や英語科教員、生徒間での対話活動を充実させた授業を行っている。	A	・コロナ禍において、英語指導講師・助手・英語教員が役割を分担しながら、生徒の育成に努められた。 ・対話活動に対し、評価。一方的な授業でないことがアンケートからも見えている。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	A	生徒のあいさつ及び言葉遣いについては、学校の重点課題として取り組んだ結果、生徒及び保護者のアンケートでも、肯定的評価が得られるようになった。生徒アンケートでも「あなたは、です・ますをつけるなど、時と場に応じた言葉遣いができていますか。」の項目の肯定的評価が95.6%であった。しかし、まだ教職員の言葉遣いについて保護者からの指摘がある。言葉遣い、服装等、教職員が率先垂範し、いっそう生徒を取り巻く環境の整備に努めていく必要がある。	A	・あいさつは人よりも先に自分から実践し、さらなる明るく活気のある学校を目指してほしい。 ・昨年より比べ数値が上回っている。制限緩和と心にも余裕ができたと思う。 ・いつも礼儀正しい生徒が多い印象です。 ・言葉遣い、あいさつでこれほど高い肯定的評価がされるとはすばらしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	いじめに対しては、毎月生徒アンケートを実施し、把握に努めている。毎週、生徒指導部会において生徒指導主任を中心に、組織的な対応について検討を重ねていることから、認知からの解消が迅速に進んでいる例が多い。またSC・SSW・SSPと連携を図り、いじめ等の未然防止・早期対応に努めている。ICT機器によるトラブルが増えていることから、正義が通る集団づくりの形成を図っていくとともに、校内研修で情報収集及び教員間の共通理解に努めていく。保護者アンケート「学校は、いじめのない学校・学級づくり而努力していますか。」の項目の肯定的評価88.7%。	A	・生徒アンケートが有効な手立てとなっている。早期対応もできている。 ・懇談会時にいじめは見られないが「あやしいり」があると書いていた。注意して見てほしい。 ・「いじめ」がないとは考えていないという点は大切な視点である。 ・早期発見・早期対応に努めて成果を上げているが、しない・させないという環境作りが重要である。 ・情報共有がされている感じが、SNS等は見えない部分が多い。 ・生徒の変化に気づける体制はよい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	A	「チャイム着席・授業準備」はできている学級が多い。教員も生徒に対し、時間への意識を促したり、ルールを遵守する意味を理解させたりしながら指導にあたっている。生徒アンケートでは「先生は、授業開始チャイムが鳴るとき、教室にいますか。」で92.2%の肯定的評価である。しかし、教員の中にも言葉遣いを含め個人差があることから、今後も継続して啓発していく必要がある。	A	・ぎりぎりに登校してくる生徒を先生が確認し、チャイムを待って次へ行動している。 ・生徒アンケートでは、授業開始・終了のチャイムが守られていない様子が散見されるので時間厳守を徹底されたい。 ・生徒たちの朝の表情も明るく感じます。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	コロナ禍にはあるが、体育の授業では感染対策をし、工夫しながら運動量を確保している。昼休みの外運動も奨励し、体力向上に努めている。部活動では各顧問の適切な指導の下、高い目標を持って心技体の向上に取り組む、県大会のみならず、全国大会や関東大会に出場するなど、活動できる範囲内でも、効率的で効果的な部活動が実施できている部活動が多い。	A	・先生方の努力に頭が下がる。部活動もバランスがとれた取組に変化していることがわかる。 ・コロナ禍においても運動量の確保に努め、体力向上に取り組んでいる。生徒にはできる限りいろいろなスポーツに接する機会を与えていただきたい。 ・結果を出すということは並大抵のものではない。指導者・生徒の努力を評価。働き方改革の中、受け入れる学校側も評価されるべき。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組みむなど、計画的に健康教育を推進している。	B	家庭科の調理実習再開に伴い、学校栄養職員も授業に入り、食育の充実にも努めた。特別支援学級の生徒が、給食ができるまでの動画を作成し、ホームページに掲載した。また、特別支援学級の生徒がトウモロコシの収穫体験から地産地消の重要性についてまとめたパワーポイントを全校生徒が給食の時間に視聴する取組を行った。仕出し弁当の食べ残しが多い日もあったことから、健康教育の側面だけでなく、食品ロスに関心をもたせるなど、SDG'sを取り入れた学習も必要である。	A	・生徒による動画は評価されるべき。工事による弁当への切り替えは仕方ないことではあったが、給食のありがたさ・食品ロスの問題に気付かせる良い機会だったと考える。今後に期待する。 ・学校栄養職員による授業などを通して、食育の充実にも努められた。これからは気候変動等による食生活の変化等も視野に入れた。 ・取組方法の工夫がよい。生徒と一緒に活動していることが素晴らしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	保護者・地域の方からの意見については、校長の指示のもと、生徒指導主任及び学年主任が中心となり、組織的な対応を行っている。学校評価における保護者アンケート結果についても、保護者からの寄せられた意見を教職員と共有し、改善に向け取り組んでいる。	A	・よく対応されている。 ・校長はいつも何か保護者からの意見はないか気にかけてくれている。 ・保護者や地域住民の意見は、校長を中心に組織的に対応する体制ができている。 ・生徒・保護者アンケートから改善可能な意見を取り入れ、改善できることは検討していると思う。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	学校だよりは、地域の方々へも配布している。その他、学年通信、保健・給食だより等についても、保護者がパソコンや携帯電話から見られるよう工夫し、配信している。ホームページもPC業務補助員の協力の下、毎週更新している。今年度は進路関係・各種動画等も続々と掲載し、ホームページを充実させることができた。	A	・ホームページの充実がわかる。 ・スクールメールからクラスルームにいけるため、お知らせが見やすい。 ・学校便りは、回覧板で地域に周知されている。また、ホームページは、毎週更新されて新しい情報が提供されている。 ・生徒による動画制作等、新たなチャレンジをしている。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	今年度も引き続きコロナ禍のため、思うような活動はできなかったものの、徐々に活動が再開されてきた。PTA会長や学校応援団コーディネーターを中心に協働体制もあり、感染防止対策を講じながら、花壇の管理やあいさつ運動、各種行事の手伝い、下校パトロール等、できる範囲内で工夫しながら支援いただき、教育活動を実施している。	A	・今年度は状況に応じた読み聞かせが再開できたのは大きい。(オンライン配信も実施できた。)学校側の協力に対して評価。 ・コロナ禍にありながら、関係団体と連携して、できることに取り組み、成果をあげている。